

この用紙は、必要な枚数を自分で
コピーしてから記述してください

■ 美術感想文 ■

手書きする

提出日: 6月 4日

○印

図 A B C D E F

5 点を提出しました

学生番号 氏名

8230 小崎みらい

作品の題名が解った人は、それを記述する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を委細する。^{夏見夏}

タイトル 私の世界 / 私自身、肖像 = 風景 (ア・リ・ルソー) / 1890.

絵の中心にいるパレットと筆を持つ男性が自分の住みたい世界を
描いた作品のように感じた。船の海の部分につけられた沢山の
国旗は彼の旅してみたい国が描かれ、中心の柱の国々も彼自身の
国の国旗... 船を自覚して描いたのではないだろうか。

「絵画である男性が好きな風景を背に写真撮った」という表現よりも
「絵画にある男性が自分の好きな世界を絵描き、それを背にして描く」
という表現の方がよっぽどあうようにも感じる。絵を絵の具で描くのに
関心する男性は男のスーツを着用している姿など、著者としての男性は
高貴な身分で立派であるのかもしれないと感じた。色彩のまとまりが美しいのである。

ルソーは絵があまり上手ではなく、あえて上手に描かない画風である。
上達しない、拙考ムラがはけいごとがとくちうで絵柄が成長していない。
足元を描くのが下手であるのにこの自画像では真黒でありながらも、
しっかりと描かれている事が気になった。ルソーの絵、色々な作品を見て思っ
たのは人間と自然、建てる物のどれかは作中に多く描かれているという事が
とくちう的に感じた。ルソーの絵画にはなじみがありなかったがために、彼の
自画像は、大事な事に気がつかないままだった。ルソーの自画像の雰囲気と描い
ていた、木と代、エッセル塔が描かれていたとか、実際に写真で見た
ことのあるものをモチーフに取り入れて描かれている作品であったという事
には全く気がつかないままだったので驚いた。私はこの作品を「次元の世界にいる
男性の自画像、私の世界」と描いた作品だ!と聞いていたのでは
ないかと、むしろ逆でリアルな世界、パリを背景に自分を描いた
作品であった事を知った。確かにあの無数の旗、作品に描かれている男性
は絵画である事を説明を聞けば納得の一枚である。

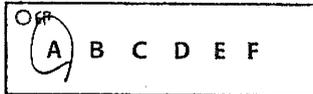
この用紙は、必要な枚数を自分で
コピーしてから記述してください

■ 美術感想文 ■

手書きする

提出日： 月 日

図



5 点を提出しました

学生番号

氏名

8242

嶋崎 楓花

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記述する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を記述する。

風景の中の自画像

一頁目

イラストのような絵画だ。パレットを持ち帽子をかぶった青年が立っている。青年の描写は質感、立体感にはあまり感じられない。背景と馴染んでいるように見えて、あまり馴染んでいない感じもある。主体は周りに溶け込んでいない孤独感、「みんか」表現されていると感じた。道端でパレットを持つ光景の違和感、画家のように思われる青年の一般社会に溶け込めない孤独感のようなものを読み取ることができた。色は魚肝油かで、淡くやさしい色合いで、国旗がちらちらと泳いでいたり家が並んでいたり街並みの風景が描かれているが、風景画という感じはしない。むしろ、遠近感もあまりなく、小さく描かれている人の姿はどこに立っているかわからないようで、奥がどうなっているかわからない。しかし、1人の男性はたしかにそこに立っていて、上を見上げている。たしかにその世界に存在していることを示しているように感じられる。リアルでない描き方によって、現実世界への不安のようなものを暗示しているのではいかと思った。路頭に迷ったような、果敢としたような、どこへ進めはいいかわからない不安と、たしかにそこにいる実感と、絵を描くことを軸にしている生き方のバランスをうまく調和できない1人の人間を表しているかのように見える。男性の表情や立ち姿、中央に位置されていることで、リアルな描写はたしかとも現実味を引き立てるように感じた。

ここまで収めること（裏面には書かない）

○印
図 (A) B C D E F

4 点を提出しました

学生番号 氏名
8246 廣森真悠

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を要する。
ルソー 風景の中の自画像

一行目

最初に目に入るのはパレットを持った男性で、少し浮いているようにも見えました。遠近法にしても男性が大きすぎるように見えるので自分の頭の中に風景を思い浮かべて、その中にぼんやりと自分がいる。そんな風景を絵に書いたのかなと思いました。色味やはっきりと書かれていない感じがやわらかい印象を受けました。自画像というのはもっとか、こつけて、胸から上の自分を描くというイメージがあったので、どうしてちょっと可愛い感じに書いたんだろうと思いました。またこの絵を生涯ずっと描き足していたという話を聞いてどこに描き足す部分があったんだろうと思いました。あまり上手でない」というのを聞き、失礼だけど同意できるな...と思いました。なのにどうして後世に残っているんだろうと少し不思議です。手に持つパレットには妻の名前を書いていると知り、妻想いの人なのかなと感じました。この絵を調べてみると、左上部分に描かれている上空の太陽が歌川広重の『江戸名所図絵』の影響を受けているのではないかという説があるらしく『眠るジプシー女』のように資料や図版を見てそのまま書いてしまったのかな...?と思いました。

この用紙は、必要な枚数を自分でコピーしてから記述してください

美術感想文

手書きする

提出日: 6月 4日

○印

図 (A) B C D E F

2 点を提出しました

学生番号 8228 氏名 半田 泰一

タイトル

野子外スケッチ

一行目

中央に黒い服に身を抱んだ男が立っている。始めに目がつくの仕男の顔だ、服の黒と空の青の間に穴が開いたように白が目立つ。何より人間は人間の顔が好きだ。こゝ目立つように描かれてはそこにか目がいかならう。主役はこの男で間違いないのではないだろうか。

そう考えると背景も納得が出来る。家+建物 他の人間が不自然なまでに小さく描かれている。見たままとらえるのなら男は巨人だと言ってもおかしくはないだろう。だが男に視線を集めるために歪んだ世界とすることもできるはずだ。むしろそう考えるのが妥当なように思える。

男は何を考えているかさっぱりわからないような顔をしている。そこが何か読み取るうというのには困難だ。他の部分から見っていくしかないだろう。

服装はどうだろうか。黒い服と言ってもまあまあだが、スーツあるいはタキシードなどの正装のように見える。そう考えると初めに決めたタイトルとの不和が生まれてしまった。だが男の服と手に持つ物の不和があるのだから仕方がない。男が持つパレットと筆は溶け出してしまっているほど淡い。存在感が弱い。消えそうな画材たちは何を言っているのだろうか。

空虚のような顔をした正装の男はいつたの何を描くのだろうか。

○印
 A B C D E F

点を提出しました

学生番号 氏名
 8247 吉野 茜

タイトル
 作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を委細する。
 私自身、肖像=風景

王様。この絵を見たとき、「遠近法という概念が、この人には無いのか」と思った。ある程度広い範囲をとり込んでいる風景に対して、人物の部分があまりにでかい。私は有名な絵画作品は多少知っているので、この絵はルソーが描いたものだとはすぐにわかったし、とすると19~20世紀の時代を生活しているのだ。こういった「フチャフチャな遠近法でも」の個性として世間に受け入れられたのだと察した。どんなに絵画を知らない人でもある程度の大人だとなら、この絵の位置関係には違和感を覚えるのではないかと。私はこの違和感こそが良いものだと思うし、おかげでこの絵に奇妙さや不思議な雰囲気をもたせようことに成功していると思う。この男性は、絵筆とパレットを持っていることから、作者であるルソー本人ではないかと予想することが出来る。宇宙に浮いているようにも見えらるが、どうなのだろう...? 遠近法フチャフチャだし、浮いているように見えらるだけなのかもしれないとも思った。男性は精悍な顔つきで、前を見ている。細やかに鮮やかに描かれた背景とは反対に、黒が沢山使われており、強い印象があらわれている。これは作者のこれから画家としてやっていく決心を表しているのではないかと感じた。ルソーと地には足を踏む(?)、パレットと筆を持ち、この方の人生を絵と描くことに捧げよう、といった、作者の強い意思が伝わってくる気がした。

感想を持った後に解説を見たのだが、この絵はルソーが死ぬ直前に何回も何回も0.5cmの幅で作り上げた(作.: だるう。小さく見えるから)。パレットには二人の妻の名前が記されているらしい。さらにこの作品は画家としてのルソーの決意や人生とたどった、渾身の絵なのだ、と感じた。ルソーの作品とすると沢山見せられることになる。

○印
図 (A) B C D E F

2 点を提出しました

学生番号 氏名
8234 佐藤 亮汰

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を要する。

自分の内の自画像

一行目

この絵は今回初めて見るのですが、最初に見たときは、比較的鮮やかな絵だ
という印象を受けました。さらに、空や地面の色が明るく、国旗の色が目立ち、人物の
影が短いところから時間帯は正午近くのような気がしていました。そのため、よく見ると
画面は夕やりのように赤く、空の低いところは白くなりつつも、赤くもなっています。
細かいところまで見れば夕方の時間帯にも見えますが、正解が何なのか、僕には
分かりません。雲の中に太陽らしき朱色の玉は見えますが、それだけ見ると、水平線に
沈みかける夕日に見えます。僕には、人物が吹き出しの中に夕日を思っ浮かんで
いるように目撃したか、それだと何が言ったのかさっぱり分かりません。

中央の人物についてですが、はじめは特に何も感じず、画家、ほかに作家
自身の絵なんだろーとだけ思いました。しかしよく見ると不自然な点があちこちにも多いと思
います。服や帽子に光が当たっておらず、背景とのパスも不自然で、何より地面に接して
いない。別の空間から切り取ってはお込んだよう。

以上のことを見て自分で勝手に想像した絵の背景はこうです。

「この絵は自画像であるが、背景は作家の内面を表わしたもので、作家自身が
黒く画面の穴のように描かれているのは、自身の見た目よりも、外側に描かれた人物
の内面に視線を集めるため。人物の絵から読んでとれるのは、正装をしているというこ
と、画家であるということ。正装は、人物がある程度身分の高い人間であることを示し、
時間や、お金は、ある人のお金に見えました。高い身分とつながって僕が連想したのは科
学者で、画面奥に見える煙突のある建物は、工場で、工業製品に関連する研究
を行っていて、その関連で、海外に進出することを狙っているためにグローバルな国旗も
掲げたのかなーと思った。空に浮かぶ黒い気球は心の奥の小さな不安にも
見えます。人物の唯一は、きりと描かれている顔からは、すらと不安のようなものが読みとれ、
その不安が、背景の落ち着いた雰囲気とつながっているのかなーと思いました。

図 

2 点を提出しました

学生番号 8222 氏名 鈴木 彰悟

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を要する。
自画像

1行目 パースもサイズ感も滅茶苦茶だが、中心の人物がバレットと
絵筆を持っていることを考慮すると、それも意図的なものに
見える。つまり、「規範をルールだくたろねえ、俺は好きに
描くぞ!」というロックンロールなメッセージだ。となれば、
これは自画像ということになる。自画像でバストアップ
ではなく全身を描くのは珍しい気がするが、それこそ
型破りなパフォーマンスを感じるし、何より私も腰までの自画像
を描いたことがあるのでそこは大きな意味を持つと
信じた。実際、その巨大な画家の堂々とした立ち姿は、
ある種の気品さえ感じさせるように見える。言ってしまう
気になるのが、この絵が描かれた年代だ。背景から
推察すると、近世〜近代あたりのように見えるが、それ
ならば、当時の主流だった描き方とあまり合致しない。ここから
考えられる可能性は、この絵を描いた誰かはプロ
の画家ではない、というものだ。プロがこの絵を描いた
とすればそれはそれで非常にロックンロールを素晴らしい
と思うのだが、ここはやはりアマチュア説を推した。

解説を聞いて

手立が合っているとは思わなかった。率直な印象だと
正直私はこの絵がかなり好きな部類だった。まず、
型破り、ロックンロールは人をひきつける魅力があると思う。
ロックとは難しい概念だが、それは何も音楽のジャンルだけを
指すものではないと思う。この絵が名画と呼ばれる由縁は
そこにあると感じた。

この用紙は、必要な枚数を自分で
コピーしてから記述してください

■ 美術感想文 ■

手書きする

提出日：6月4日

○印
図 ① B C D E F

2 点を提出しました

学生番号 氏名
8250 佐藤 桃子

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を委細する。

私自身

一行目

この絵を見て最初に思ったのは、中央にいる男性が、パレットや筆を持っているのになぜ棒立ちなのか、絵を描いていないのか、が疑問に感じました。個人的には絵を描くというより、これから描く絵の題材を探すために、スクッチするために道具を持って街へ出掛けている様子なのかなと思いました。そして人物は全体的に黒く、あまり描き込まれていなくて、逆に描き込まれている背景と対照的としても目立っているなと思いました。一番気に入った事は中央の男性とほかのものの大きさの差が気になりました。道の端にいる通行人と思いきや建物に比べ、何十倍くらい大きめで男性が描かれていて、なぜこんなにメインの男性とほかのものの大きさが違うのか、故意に大きくしているのか、気になりました。初め見た時、そんなに大きさの差に違和感を感じたので不思議な感じでした。解説VTRを見た後、メインの人物とほかのものの大きさの差は何か意図したものではなく、ただただ下手だったから？と意外な感じで驚いたし、逆におもしろく感じました。そして、そんなに気にしていなかった、気球は実はこの時代では新しいものだとして、こうやってこの時代にはこういうものが新しく出てきたんだ。っていうのを絵画で知るのが面白い所だなと思います。あとルイーは図鑑や写真を見て描くから、この絵画のように遠近感があふやになるんだな...と思うと、実物を見ない絵でも悪くないと感じたけど、実物を見ることの大切さがわかった気がしました。そして私は絵を描こうとしている男性かと思ったら、ルイーの自画像で、しかも万国博覧会の様子と一緒に描かれていて、組み合わせが自画像っていう雰囲気じゃないかなと自分が見てきた中の自画像とちがっておもしろさを感じました。

○印
 A B C D E F

点を提出しました

学生番号 8239 氏名
 坂本 晃基

作員の題名が解った人は、それを記載する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を挿入する。
 タイトル
 「 自身、肖像 = 風景 」

一行目 ・ 解説を聞く前の感想

画家がこちら側を向き、横目でどこかを見つめて
 いる絵画。淡い色合いの中、彼はどこを見ているの
 だろうか。一見するとグッフェルのおひつ子調子の
 色合いだ。空には雲が浮かんでいる。曇りの中
 に月が浮かんでいる。ほとんど不気味だ。

空に浮かんでいるものがもう1つ気球だ。この絵の中で
 唯一つ影の暗さだけで描かれているモチーフだ。

他のモチーフ。例えば旗や、遠くに見える家々、
 山はみまを全て入れ替えた色合いがあるが、気球だけ
 は黒く描かれている。このモチーフは作者の何かの
 暗示のりだろうか。気球は空高く昇っていき、どちら
 かと言えど「グッフェルは「グッフェル」はモチーフ」という象徴に
 別のモチーフを黒く描く。どこか、観覧客を不気味にさせる。

・ 見た後の観想

この画家が「グッフェル画家」と呼ばれていることに驚き
 いた。色合い的にも良い感性を持つ。大作品だったと思う。

だが、写真を見ただけでは分からない。色合い
 はいいが、小橋で会った画家は、70歳と
 丁度丁度の最大の差は、最後の仕上げである
 と言われていた。彼の場合、形の取り方と、最終
 仕上げが足りなかったのかと思う。

○印
A B C D E F

4 点を提出しました

学生番号 氏名
8254 松宮 康太

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を要する。
タイトル 自分で考えたタイトル「船来画家」

一行 この絵を見た第一の感想は「堂々としている」だ。画面の3分の2を青空が占め、橋や建物、国旗を掲揚した船もあるのに、それらを上回り真ん中に描かれた漆黒のスーツに身を包んだ紳士に視線の全てを奪われていく。この堂々とした紳士にフォーカスし、論を進めることにしよう。

この紳士の肌の色、帽子、髭、服の型などの情報を整理すると、フランスかイギリス、あるいはイタリア、ロシア、スウェーデンの北欧の人かなと想像できる。次に、手に持つパレット、筆を見てみる。油彩画を描く人によく見られる木製パレットだ。何を描くのかは分からないが、この紳士の見つめる先にモチーフがあるはずだ。それはこの画を見る者の判断に委ねられる。

次に、男の後ろにある景色に注目してみる。第一に目に飛び込むのは船である。目も綾な国旗たちに心を奪われそうになる。次に空だ。気球が天高く昇る夕焼けがかかったオレンジがかすかに見える青く澄んだ美しい空だ。その美しさは神を賛美しているかの如く燦然と輝いている。

その船や空は紳士のために働いている気がする。鮮やかな旗も、グラデーションの綺麗な青空も、この紳士の黒の黒さには敵わない。全てはこの紳士のために描かれたものなのかもしれない。

この用紙は、必要な枚数を自分で
コピーしてから記述してください

美術感想文

手書きする

提出日 6月 7日

○印
A B C D E F

5 点を提出しました

学生番号 氏名
8241 小野寺 海香

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記述する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を委細する。

私自身

- (1) この絵は何度か見たことがある。ルソーの「私自身」という肖像画作品だ、パレットと絵筆をもち、正面ではなく少し斜め上を見下して、何を描くのか考えているかのように見える。そんなルソー自身そのものを絵の中心に描き、背景は、ルソー馴染みのある所なのか、故郷なのか、わからないが、川の近くで、天気もよく、のどかな場所だ。しかし、背景とくらべてみるとルソーが、なんだか大きく見えて、足元の影を見ると、なんだか浮いているように見える。遠近法でうしろが小さく見えるようになっていて、まるで巨人がそこに立っているように見えて、違和感をおぼえる。また、パレットを持つ手も違和感があった。こちらにパレットの表面を見せるかのように傾けていて、すごく不思議に思う。パレットの上はとてキレイで、絵の具も出したてのものがきれいに色順に配列されていて、これから風景を思い、絵の具を混ぜ合わせるのだから。
- (2) 映像説明を見て... ルソーは本質的に絵が下手くそだ、とは知らなかった。25年間描きつづけていたが上達しなかったし、出来んうが激しいという有名画家ではめずらしい人だ。私が感じた人の大きさと背景の違和感の原因が下手さにあたったなとわかった。中学生が描いたかのようなルソーの絵は、毎年、展覧会に出品する度に笑いのものにしかバカにされてきた。見せるように手に持っているパレットには2人の妻の名前が書いてあるとは気がつかない。それでも笑いのものにされたように、私は妻を思う心をとて感じた。また、今までのルソーの絵を見くらべて、退行現象がおきていることがわかり、その当時、20世紀の時代、不安からのがれたかった、という思いがとて伝わった。

ここまで収めること(裏面には書かない)

この用紙は、必要な枚数を自分でコピーしてから記述してください

美術感想文

手書きする

提出日: 6月 4日

図 A B C D E F

5 点を提出しました

学生番号 8216 氏名 佐々木 梨乃

タイトル 作品の題名が解った人は、それを記載する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を委細する。
画家

(1) この絵の第一印象は、やはり、画面の中の真ん中、一番目立つように描かれている真ん中の男性でした。パレット幅をかぶり、パレットを持っているところから、この男性は画家なのだと思います。背景には、青空が広がっており、様々な種類の国旗がついた船位があり、この背景、風景はこの絵の中に描かれている画家である男性が描いた、もしくは描かれている絵なのかなという気がしました。一つ、不思議に思った点があり、それは、ふたつ、絵の真ん中のパレットをもっているのにも関わらず、この絵の中では、男性の服が全く汚れていないという点です。服装だけを見ると、これからどこかパーティーにでも行くかのような服装だと思いました。

(2) タイトルが、「私自身、肖像家=風景」ということを知って、この絵はルソー自身の自画像と、彼が思い描いている風景が描かれているのだと思いました。ア・リ・ルソーは素朴派と呼ばれていたことが、なんとかが納得してしまいました。

この用紙は、必要な枚数を自分でコピーしてから記述してください

美術感想文

手書きする

提出日: 6月 9日

○印

図 (A) B C D E F

5 点を提出しました

学生番号 8236 氏名 嶋 楽人

タイトル 作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を委細する。

被写体探し

一行目

画家らしきおじさんが立っている。なんだか大きい気がする。大きい。このおじさんは何を考えているのかわからない、表情をしている。ポーっとしているのだろうか。パレットと筆を持っていることから絵に関連したことをしているとも考えられる。そこで2つのパターンを想定した。おじさんが何か絵にできそうなものは無いか探しているというものと、描いている途中のキャンバスから高角度で見ているというものだ。前者は、おじさんが画家、ほくて中島が被写体を探すときにポーっとしているような表情をするという理由だ。もし被写体探しをしているのなら、被写体探しをしている人を被写体に行っているという面白い場面になる。後者はキャンバスが画面に写っていないからだ。パレットに絵具まで乗せておいてキャンバスが無くてありえないだろう。それにしても作者はなぜこのおじさんを描こうと思ったのか。後ろの船でも良さそうだったのに。作者もポーっしておじさんを見つけたのかもしない。

この用紙は、必要な枚数を自分で
コピーしてから記述してください

■ 美術感想文 ■

手書きする

提出日 6月4日

○印
A B C D E F

2 点を提出しました

学生番号 氏名
8220 中島 明日香

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記述する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を記述する。

風景の中の自画像 (私自身、肖像=風景)

初めて見た感想として、描かれている人物がモデルとなっている絵画はイマジナリがありました。それか、本人が自分をモデルとして、自分が立っているのが描かれているのかは思いました。背景には風景のとても西洋感あふれる建物と旗、橋、気球、その中でフォーマルな姿勢で立つその姿は、実際にあるものを描いているのではかと思いました。しかし、人物と背景のバランスが合っており、どこか不思議さを与えられました。調べてみると、これは、ルソワの肖像画だといふことがわかりました。アリス・ルソワの初期の代表作『風景の中の自画像 (私自身、肖像=風景)』といふ作品で、1889年に開催されたパリ万国博覧会の情景を背景に、まだ税関吏として働いていたルソワが画家として46歳の姿を描いた自画像作品です。背景の通行人と比較し、おりにも巨大に描かれるルソワも特徴です。この作品は画家が風景と肖像を一体とすることで、それにより類の新しい独創的な自画像の世界観を表現し、新たな絵画的展開を開拓しました。この絵の前後のバランスが合っており、不思議な絵ですが、ルソワの思いが込められた作品なんだと感じました。この作品は死の間際まで加筆し続けた作品であり、太陽は歌川広重の版画集『江戸名所図絵』の影響があり、日本にも関わりがあることに驚きました。小まはとこ3に工夫がはさかれており、ただ1つの作品が、この大規模な意味をもっとは知りたかったです。1つの構成要素が私たちに観る側にとり不思議な印象を与える作品だと感じました。

この用紙は、必要な枚数を自分で
コピーしてから記述してください

■ 美術感想文 ■

手書きする

提出日：6月4日

○印
図 (A) B C D E F

5 点を提出しました

学生番号 氏名
8243 高松 波那

タイトル
作品の題名が解った人は、それを記載する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を要約する。
「自画像」 「私自身、肖像=風景」ルソー

★ 一行目 画家のおじいさんが川沿い立っている絵。
一番最初に得た情報はこれです。画家のおじいさんはパレットと筆だけを持って何をしているのかキャンバスはどこだろうか。そのような疑問を次に持ちました。私が思うにこのおじいさんは自画像なのではないかと考えます。人物をどまんなかにおいて主役というふうにしていて、動きが少ないと思、たからです。この絵を描いている自分を描いているからパレットと筆を持っていて、キャンバスもどかしたのかなと思いました。次に人物に変な異和感を感じました。バランスが悪いというか...地面の影を見たらずいいていようにも見えます。想像画なのか...背景はきっちり描いているような感じもあるので完全な想像というわけではない気がします。人物のアンバランスさと美しい風景が合わさった不思議な作品だと思いました。

★ 自画像では...という考察が合っていて驚きました。背景にエッフェル塔があるのは気づきませんでした。この舞台がフランスのパリということはこの絵はセーヌ川沿いの風景を描いたものかなと思います。あと人物がアンバランスなのはわざとじゃなくてルソーが苦手なだけだったというのも意外ですごく驚きました。

○印
 A B C D E F

2 点を提出しました

学生番号 8219 氏名 加藤 瑠花子

タイトル

ルソー 「私自身、肖像＝風景」

一行目

私から初めてこの絵を見た時は、何か不自然な感じ
 があるなと思っました。中心には1人の男性が立
 っている。その大きさを比べると奥にある建築物や橋の
 大きさが合っていないと思っました。また、空には
 何かやら竜巻と太陽のようはものがある。一見
 晴れしていますが、竜巻があるのだから、本当にそうかは
 は、わかりません。この絵はどのような状況な
 のかと考えた時、私は、この男性は画家で、街を
 散歩して何か作品のヒントを得ようとしている際
 中ほどの時と思っました。また、着ている物を見る
 と全身スーツのような服を着ているので、お金持ちの
 人だと思っました。角写像を見ると、これは1人
 しか描いていない絵だ。本当は絵か上手なのに、わか
 と下手に描いている画家の時のこととわかりました。
 不自然な理由は分かりました。なぜわかると
 そう思うのかはよく理解できませんが、一つの斬
 新的な描写の方法なのかなと思っました。また、私
 が竜巻だと思っしたのは気球だっと思います。
 船の上にある沢山の国旗が、よく見ると、テ
 ラックスに描かれていました。私は、国旗から
 丁寧に描くのも良んじゃないかなと思っました。
 また、男性が持っているハットには、過去の2人
 の妻の顔が描かれていることもわかりました。
 なぜ「知前」を書く必要があるのかは理解できませ
 んが、また、2人に床があるのかなと思っました。

18cmの絵
 25cmのま

この用紙は、必要な枚数を自分で
コピーしてから記述してください

■ 美術感想文 ■

手書きする

提出日: 6月4日

○印
図 A B C D E F

□ 点を提出しました

学生番号 氏名
8238 漆崎未空

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を要する。

「私自身、風景 = 自画像」

一行目

真ん中に立っている黒い服のおじさんが後ろの船の国旗
らしい旗に色を塗り終え達成感とともに不満げな感じが
伝わってきた。また、あまり色のない街に魚やかきを探して
いるのかなあと感じた。リアルな色づかいで街並みを表現
しているのが良い。その中に旗のカラフルさがあり、自立して
いるのも良い。川に橋・街並み・自然という王道な外国の
風景も良い。おじさんの表情が笑っていないのが怖い。
帽子の形が面白い。ひげがきもち悪さを出していると思う。
ひげが灰色が混ざっている所からも60代くらいの男性に見
える。絵書き、デザイナーとうかがえる。悲しい表情にも見える。
おたやかな街の雰囲気だが、青い空に浮ぶ黒の気球が意
味深。いたって違和感のない普通の絵だと思う。太陽が川
にうつっている夕暮れ時を感じさせる。奥に人2人がいる。
なぜ絵を書くのにスーツのようなシックリした服を着ているのか。
なぜ船にこんなたくさん旗があるのか。よく分からない
帽子は何か。奥の2人は何をしているのか。男性はどのよう
なことを思っているのか。

この絵の作者はア・リ・ルソーという人で、本質的に絵が下手
くさ。長いこと絵を描いてきたが上達せず、特に人物画が
下手。それと比べ、木や空は他の作品からも上手さが伝わる。
絵が下手だから市民に笑いものにされていたが、その一方で
楽しみにされていた。パリの万国博覧会を描いたもので、
旗はでたらめ。真ん中の人は自画像で、奥の人との大き
さが極端に違う。

ここまでに取りめること (裏面には書かない)

○印
A B C D E F

2 点を提出しました

学生番号 氏名
8257 長沼京香

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を要する。

風景の中の自画像

真ん中の黒いおじいさんが、少し浮いているような感じがしました。
そして、左後ろの方に、2名の人がいるのですが、その2人
と比べて、遠近法にしても、おじいさんのサイズ感が
割と大きく感じました。2名の人の上の方に、
国棋みたいなものがありましたが、割と実在しないものが
多いように見えました。空の雲が、右側は、割かし、
普通だと思えますが、左側の雲が、とても大きくて、
本当に雲なのか、疑問に思いました。雲にしては、
トゲトゲしくて、ふわふわしていません。雲の左側には、
日の丸の様なマークがあることに気付きました。
左側の雲の形や、いびつ過ぎて、右側の雲は、
普通に感じてしまいましたが、実際、よくよく見ると、
右側の雲もおかしい形をしていると思いました。
そして、右側の雲に混ざって、浮かんでいる、黒い物
体は、予言かと思いました。黒い予言なんて、少し
不気味で、不吉だなと思いました。
解説を聴いて、てっきり、他人の絵を描いているのだ
ろうかと思っていましたが、自画像だということに驚きま
した。少し気になって、自分で、調べてもみましたが、
個人的に、目のつけ所は、良かったのかなと思います。
おじいさんが、手に持っている、パレットには、七き毒、
再婚相手、再婚相手と考えられていた女性の名前が
書かれていたという所は、少し感動しました。
死際に描かれたというのに、かなり細かい所まで、
表現されていることか、私にも伝わってきました。

図 IP

A B C D E F

6 点を提出しました

学生番号 氏名

8215 田島 梨

作品の題名が解った人は、それを記述する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を記述する。

タイトル

私自身：肖像 = 風景

(1) 絵描きが立ちっくしている。一見すると、ただそれだけの絵に見える。が、よく見ていくと、どことない違和感を感じるの何故だろう。まず、男の表情を見てみよう。下半分はヒゲで隠れて見えぬが、どこか険いげだ。雲一つ無い、とまではいけぬが、よく晴れた青空の下にいるというのに、どうしたのだろうか。又、男のサイズ感もおかしい。いくさ前にはいえ、奥に生えた木、立っている2人比べて大きすぎる。これは一体どういうことなのだろうか。男の右側を見つめると、黒い影が浮かんでいる。形が丸くて気球だろうか。全体的に色のある画面の中で、ここだけ黒とグレーの中間のような、影のような表現が成されている。単に遠くにあるせいなのかもしれないが、私にはこの気球と絵描きの男が、似たような存在であるように思える。この街に受け入れられていない存在、あるいは、この街を受け入れていないように見えてしまうのだ。

図

○印
A B C D E F

5 点を提出しました

学生番号 氏名
8203 姉崎 由奈

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を委細する。

タイトル

私自身

一行目

パレットと筆を1つずつ持った男性が立っています。彼の視線は画面右側を向いており、おそらく、彼は絵を描いている途中なのでしょう。絵を描くとき、多くの人はキャンバスに体を向けて絵を描きます。絵の中の男性も絵を描いているとすれば、体はキャンバスに向いていることとなります。つまり、この絵は彼の描く絵のキャンバスの中からの視線で描かれた作品なのではないのだろうかと思います。絵の色合いは全体的に淡いです。絵の左上には雲の中にオレンジ色の円が描かれています。おそらく、太陽です。太陽のある雲はもちろんですが空の上部や左下の川のようなところも赤みがかっています。太陽がオレンジ色の輝きを増やすのは夕方なので、私はこの絵の中の世界も夕方であるのだと思います。時刻を夕方に設定することで「もう帰る時間」という寂しさの印象が付けられます。絵の中の男性は今日の作業を終える前の絵全体の確認をしているように思いました。

解説VTRを観ました。ルソーの名前はよく耳にしますが、きちんと絵を観たのは今回が初めてかもしれません。私は彼の絵を見て下手とは思わなかった。ルソーが生きた当時、周りはほかにされていたと知り、とても意外であると思いました。教科書の表紙になりそうな絵だと思いました。また、「足を描くのが下手だから花を描いた」と聴き、少し共感の気持ちを持ちました。今でこそ有名な画家であっても、自分と同じように隠したりするのでよね。「私自身、肖像＝風景」には国旗をつけた船があったので国を特定しようとしたがわからなかった。でも、実は後ろにエッフェル塔があったのでよね。それがわかれば国もわかりました。あと、気づくことができなかったのは気球の存在です。少し雲のぶ厚い暗い雲だと思っていました。たしかに、言われてみれば気球のようなシルエットです。そんなところにもルソーの絵の下手さ具合が出ているのでしょうか。私が始めにしていたキャンバスからの視点というのは全然違ったようです。自分の肖像画なら自分の見ためだけでなく、やっていることや気持ちなどもとらえさせられるためにパレットを持ち、色鮮やかにしているのよね。

ここまで収めること（裏面には書かない）

この用紙は、必要な枚数を自分でコピーしてから記述してください

美術感想文

手書きする

提出日: 6月4日

○印

図 (A) B C D E F

2 点を提出しました

学生番号 8213 氏名 浅野日和奈

タイトル 作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を要する。

アンリ・ルソー「私自身: 自画像」

この絵を見て、最初に感じたのは「違和感」である。空と運河のほとりを背景に、男がこちらを向いて立っているが、何かちぐはぐした印象だ。わざとシュールに描いたのだろうか。そこで私はその 凛然としたイメージを少しでも私拭しようとして解説を見ることにした。

アンリ・ルソーと聞いて、真っ先に思い出したのは、横画面の上半分の白い服を着た老いた顔の子供が駆けている絵だが、その絵を教科書で見た時の気持ちと同じような感想を抱いたのは同じ作者の絵だったからなのかと念点がいく。プリミティブの画家は、あえて上手に描かない興味で絵を描く日曜画家、とのことだが、他の画家と違って最初からおかしな絵を描き続けていたことには驚いた。絵描きはあるきっかけで自分の技法を大きく変えたり、ピカソのように視覚情報を再構築させて、「あえて」下手に描いている場合が殊だと思っていたからだ。さらに、ピカソが評価したことによって大衆に良さが伝わるというのはまさに鶴の一声であり、ピカソの見る目が大衆鉄心とも再確認した。実際にジャングルを見つけたわけではなく、自分が見た本や図鑑から得た情報をもとに描いているというのは、なんとなく内向的な印象を受けた。プリミティブの語源の中に「幼稚的」とあるが、安全に保護されていた幼少時代に戻ることによって自分を保護するというのは人間であれば誰しもが考えることのように思う。私も子供の頃の遊びや、絵本のことをしょっちゅう思い出には懐かんでいる。

ここまでに取りめること (裏面には書かない)

○印
図 A B C D E F

2 点を提出しました

学生番号 氏名
8224 青木 芽生

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を要約する。

タイトル

絵画を描く自分の自画像

最初に見て感じたのはこれは自画像なんだが、という印象でした。何故なら、筆
やパレットを持っている人物がいて、この後ろの空や町は私が今描きましたと言っている
ようだからです。しかし自画像といふことも自分をメインで描くのでは?とも思いました。
また中心の人物が少し浮いているようにも感じられます。更に人物と他のモチ
ーフとの大きさの差が、遠近法を用いているとしてもなんだか変ではないかと思
いました。背景が小さすぎるような気がするのです。私はこうすることで中心にいる人物
(作者と仮定)と周りの背景は同じ空間にいるのではなく、描く側と描かれる側という
関係にあるのではないかと推測しました。また服装にも注目しました。どうして全身真
黒なのかと感じたからです。当時はこの服装が一般的だったのでしょうか。私には褌服
を着ているように見えます。何故そんな服を着た人物を描いたのかわかりませんが周り
が色とりどりの物が多いので真黒い人物のみが画面のなかでの異質さを
放っているようにも思えます。背景は作者の故郷で思い出しながら描いているの
ではないかと思いました。絵をよく見ていると気づいたのですが、どうして青空が
広がっているのに、左側の川の水は赤いのだろうかと思いました。まるで空は昼だ
けれど川の方は夕方という時間のズレがあるようです。しかし中心の人物の影か
ら考えると、太陽は絵の真上にあるのではないのでしょうか。画面の中のものの時間
が少しずつ違っているのだとしたら作者は、どうして時間の経過を一つの画面で描
いたのでしょうか。朝→昼→夕方という時間の流れを人の人生(子ども→大人→老人)に
例えたスフィンクスの問いがギリシア神話にあったのを思い出しました。作者
はそのようにして、自分の人生という大きな時間の流れを故郷の風景の中
に溶けこませているのではないかと感じました。どこか暖かみのある故郷、真黒
い服を着た自分、川辺に泊まっている船は、今まさに自分が旅立つことを示している
のではないのでしょうか(船の近くの2人組は両親?)。なんだか今まで見た自画像
よりも深みがある絵だと思いました。

この用紙は、必要な枚数を自分でコピーしてから記述してください

美術感想文

手書きする

提出日: 6月4日

○印

A B C D E F

5 点を提出しました

学生番号 氏名

8212 安藤 美羽

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を要約する。

自分で考えたタイトル 「出発」

ア・リ・ルソー 「私自身、肖像=風景」

最初の感想 人物が真ん中に描かれていることから、この絵の重要な所は黒い服を着た男性にあるのではないかと感じた。人物に着目してみると、右手には筆、左手にはパレットを持っている。そこから、この男性は画家なのではないかととることが出来る。だが、私はこの絵からゆっくりと流れる休日の雰囲気のようなものを感じ、休日に思い立ち絵を描こうとした人かとも思った。後ろにある船や青い空、人物を正面から描いていること、足がそろっている訳ではないが右足を前に出しているということからどこかに踏み出そうとしている決意のようなものが感じられた。男性の目にも何か強い意思がにじみ出ているような感じがした。船に描かれている色とりどりの旗は、国旗？ 後ろの船と人物に意味を置いてこの絵を描いたのなら、この男性にそれぞれ進もうとしている国を重ね合わせ描いて、伝えたかったのは世界的情勢の可能性もあるのかな？ と思ったりした。また、雲の形があまり似たことが面白い描き方というか、どこかイラストレーションチックなものを感じた。

解説を聞いて ア・リ・ルソーの下手士が人に求められていたというのは面白いと思った。昔は下手だから次はどんな面白い絵を描いてくるのだろうと馬鹿にされていた人の絵が今では有名な絵として紹介されているのは不思議である。真ん中に描かれたのは作者自身であったのを知り、作者も絵を描く人であるからなるほど、と納得した。後ろにあった国旗はなぜわざわざ描いたのかと思ったが、旗にはそれぞれ意味をたくしていいのかなと思った。パレットに書かれた文字には気づかなかった。なぜパレットに1人目と2人目の事の名を書いたのだろうと思った。それをまた人に笑われるなんて、人に笑われることを楽しんでいたので、人に笑われるとは気づかずに自分の思ったことをしてしまう素直な人なのだろうかと思った。

○印
A B C D E F

5 点を提出しました

学生番号 氏名
8233 越浪 実柚

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を要する。

終わり

1行目 なんだりのっぺりとした平面的な人物は、少スペースの崩れた地面の上に立っ
ているようで、立っていないようで不安定さを感じます。ですがこの不安定さはこの
理由だけではなく、どこか一点をみつめ、肩をみよめ、パレットと筆を持って
何か描くものを探し、定めているからでしょうか。それとも、絵を描こうとしてい
るときに見てほしいものをみつけた？ または自分の描いた絵を、遠くから見つめ
ているのか？ 色々考えましたが、私は「戦争」について触れた作品なのかなと
思いました。全体の色味はオレンジ色で、小さく存在する太陽、これらは爆発
の光や色味を表し、この男性は美術が戦争によって失われていく喪失感、後ろにある
船と国旗は戦争加入国、地面の不安定さは不景気、気球は戦闘機？と考え
ました。全体的に冷たく、絶望までとはいかなくとも喪失感、悲しみを感ずります。更に
色味がオレンジであるためそこが夕焼けのような哀しみもあると思いました。また、
タイトルのように「美術の終わり」を表しているように思います。

(2) あえて、このスペースの狂いや顔などの描き方をしているのかと思ったら、ただ趣味
の絵描きで下手な素朴な画家だとは予想外でした。何十年にもわたる絵も本当に
上達ぐあいもなく、出来栄もひどく、ここまで有名になれたのは本人の絵の力が周りの
反応か、おもしろい歴史に感じます。でも確かにこの絵の聖の表現はすごいキレイだ
と思っていました、他の作品も樹木や雲は綺麗な表現で、なぜ人間だけこういう
表現のままなのか不思議でした。(色味も美しいのに) そう考えると、他の画家は形を
とるの色柄も美しいです、逆にルソーの魅力がわかるようになりました。

○印
図 (A) B C D E F

5 点を提出しました

学生番号 C 氏名
8201 稲辺 みのり

タイトル
作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を要約する。
「私自身、肖像＝風景」

一番最初に目についたのは、おそらくこの絵の主演であろう、中央に
立っている男性です。パレットと筆を持っていて、この人は絵を描きのおじ
さんなのか？、と思います。でもスーツで絵を描くのか？とも思いま
す。おじさんも街並みもヨーロッパの感じがします。とてもの「かろうで、平
和な街並みだろ？」と思います。左後ろにエッフェル塔のフタモのか「見
えるので、パリの街並みなのか？とします。時は夕暮れで、空の色と夕日
の光のオレンジがとてもきれいです。私は階段から夕暮れ時の空の色が
好きなのもあって、空や川、道への光の反射や少し暗くてもいい感じの
空のグラデーションがとてもきれいで好きです。人もよく見たらおじさんの他
に6人いて、皆それぞれ動きに動きがあるのか？、たぶん想像してこの風景の中
でとてもわがわが音がある部分がある、それが「空・雲」です。まず、雲の形が
雲にあまりないか？とした部分がありとなくあります。色味から
して雲のフタ感じがあるけど、左側の大きな雲、右側の手前にある
雲は本当に雲なのか？と疑問を抱きました。(雲にある雲は自然の
雲に見えるので...) この雲の形に何か意味が込められているのか？
と思うので「か？それがどんな意味を持つのか？と私にはわかりませ
ん」として、太陽の位置がおかしいのか？と思います。この日暮さ
の夕方から、太陽はもう沈んでいるはずだし、そもそも雲の中にあるの
は現実的に無いのか？と思います。川の水面上には太陽が反
射しているし、おじさんの影もこちら側に落ちていて、太陽のある方向
に間違っているか？と思いましたが、技術的にそこを見ても、まず一番
おじさんがパレットを引くのは、衣服の黒色が濃淡なくパッと描かれてい
ることがあるか？と思いましたが、しかし、浮き上がっているのは、全体の彩度が高すぎるこ
とで、下半身の周囲はぼんやりさせているからか？と思います。人物が
一体何を思っているのか、考えたくなってしまった作品でした。

○印
 A B C D E F

5 点を提出しました

学生番号 8255 氏名 成田佑香

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を委細する。
 タイトル 青天 「私自身、肖像=風景」

筆とパレットを手に持った(男性)という点から、男性が、この絵を景色を描いているのでは、
 というのが第一印象だ。しかし、絵の具の色(パレット上の)を見ると、後ろの国旗を
 表しているのではないかと考えた。
 背景は青空や橋、船や人といった、よく言えば普通で、結構ありえる感じだが、
 センターの男性はその服装(黒のスーツ?)で絵を描いているのは、何かあるもの
 のとどうして疑ってしまう。自分が今までよくみてほしい服が上下三ヶ所まで絵の具を
 扱ってきたので、大丈夫だと心算している。だが、「黒服を着て描くのはどうなのか」
 というのを並べ、「なぜその服で?」と発想を変えると、たぶん男性は
 気持ち的に、いざまたいざあるい、服を変える暇もないほどの何か、あな
 のではないかと思ふ。今おいてでも、残したい出来事か。
 もうひとつ思ったことは、男性は正面にあるであらうが、これは見ているのではないかと
 考えた。中々に高い所に立っている、+視線から、描いている途中、完成した時、
 またはこれから描き始める、のどみかたとは感じ取れる。だが、筆とパレットを
 まだ持つままの点から、これから始めるのだと気がついた。
 そして、前文に書いた「いざまたいざあるい何か」というのを描くのではないかと
 思っていたが、もしかしてこの男性は「平和」や「友好」を描こうとしているのでは
 ないだろうか。そう考えれば、後ろの船の国旗である。友好にでもなるかと
 もならない国旗と、その数から、「これから絵を描く」という原動力としている
 のではないだろうか。男性の立ち位置が、真ん中のも中立的なことを意味して
 いるのではないかと考え、作者もそう思っただけではないだろうか。

男性は「自身」であらうと、そして万国博覧会のその華やかさを表していること。
 その2点を「あるほど」と思ったが、国旗のキラキラさはスルとしておいた。
 人物の大きさのかけん等、ルイの新しいもの好きさ、上達しちがた経緯、
 だがしかし、やはり、この絵からは確かに、当時の華やかさが明るさが伝わってくる。

○印
 A B C D E F

点を提出しました

学生番号 氏名
 8209 吉野 萌美

タイトルの欄
 作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を委細する。
 パリの町 (ルソー) 「私自身、肖像=風景」

1行目 高校生の時、少しだけこの絵について授業で触れたが①有名な人が描いた②
 浮世絵が所々にとり入れられている③作者は絵に関しては素人④万博か何かの時
 の様子を描いている⑤パレットには奥さんの名前が白い絵具で書いてあり
 、このうちが覚えいていませので、今回また新しく、見えて思ったことを書いてい
 うと思います。この絵はパースをとっているようでよく見たら違和感だらけ
 だ。まず中心にいる作者は地面との設置面があやふやで宙に浮いているが、
 そこにまついたう背景と合わせて見た時巨人となってしまう風に見える
 と思います。他にも雲の形も違和感があったり、青空はのびに何故か雲の上
 に夕日らしきものがあたり不思議な点が多くあります。しかし、物は細か
 く描き込まれており、橋の装飾や国旗がパレットにある大きさでもきちんと
 描かれています。今まで描いてきた作者は何故急に絵をかこうと思ったの
 だろうか。

解説

ルソーは素朴画家であり、下手くそな日常画実があった。特長として、1. 上達
 しない、2. 出来のムラが激しかった。誰かを出して審査なしの展覧会に
 出していた。その展覧会でも、下手くそ扱いされたが、ピカソら名高い美術
 家がルソーの絵を評価し始めたため、美術界として認められるようになった。
 では何故、ピカソらはルソーの絵を評価したのか。彼らは絵が上手い
 下手ではなく、下手を含めた上での雰囲気や評価した。主に有名とこ
 れている絵は6点あり、どれもやはり出来ムラが激しい。ルソーは下手だが、
 色使いに関しては一品であった。

この作品は何と云おうかタイトルで、「私自身、肖像=風景」という。
 これは万博の時に合わせて描かれた自画像かという。パレットには妻の
 名前が書いてあるのだがこれがまた、2人の妻の名前が書かれているとい
 うのだからたまげたものだ。一体どんな意図をもって自画像の中に妻の
 名前を書いたのだろうか。



この用紙は、必要な枚数を自分で
コピーしてから記述してください

■ 美術感想文 ■

手書きする

提出日：6月4日

○印

図 A B C D E F

点を提出しました

学生番号 氏名

8214 長井千佳

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記述する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を記述する。

「風景の中の自画像」

11日

絵の中の人物が何を描いているのか想像する不思議さと面白さがあると感じた。人物の表情はリリしく、どこかを見据えているような目だ。背景も繊細に描かれている。船に描かれている数々の国旗は色とりどりで、この絵画のアクセントにもなっており、異国情緒であいられている。よく見ると小さな人物がいて、散歩やなにかをしているのではないかと思った。緑がかかった空に浮かぶ雲の形も独特に感じた。少し角ばったフォルムは山の頂上を連想させる。雲の中に小さな夕日の風景があり、より一層世界観をファンタジックなものにしている。私が考えたのは、彼の描いた風景が、空の上にあること、彼は自分の描いた物を見失ったが、それがどこへ消えたのかはわからないというエピソードである。一体どれが絵で、どの景色が本物なのか、中央にいる男の立ち位置すら曖昧にされている。空中には影のような気球が一つ浮かんでいる。ぼんやりとしたグレーが画面の中でしつこくなく、男の黒い服装や空の少し日が上り始めたような色とマッチしているように感じる。絵の中に迷い込んだように佇む男からは、何の感情も読み取れない。あるのは彼の存在と、彼を背後から見つめる小さな夕日。絵を描くうちに、彼は空想と現実の境を見失い、町中で自分の絵を探しているようである。しかし、この絵画は彼の肖像画、あるいは自画像ということもあり得る。そうすると、彼の居場所は安定したものになるだろう。調べてみると、アンリ・ルソーの素朴なタッチに納得のいく絵画だった。ルソーの作風は一貫しているが、夢の世界のようにも思わせる空間を醸し出しているこの作品は、抽象画的要素も含んでいるように思う。雲の描き方はルソーの独自性がよくでていてのではないだろうか。ルソーは他の画家に比べれば、輝いた個性はないが、そんなルソーの、現実世界に空想を描こうとする価値感や、自分なりの世界を追求した姿がシュールに描かれていて、これはこれで「個性的」な絵に感じて現代ではおかしくはないと感じる。

ここまでに取りめること (裏面には書かない)

この用紙は、必要な枚数を自分で
コピーしてから記述してください

美術感想文

手書きする

提出日：6月3日

○印

図 (A) B C D E F

5 点を提出しました

学生番号 氏名

8206 酒井 李果

作品の題名が解った人は、それを記載する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を記載する。

タイトル
故郷への帰路 → 「私自身、肖像 = 風景」

-17日

川沿いを歩く1人の男性。ピレットと鉛筆を持っていることが第一に目に入ってきた。画家であろう。きれいな身なりをしているため、有名な画家であるのかもしれない。男性のまわりに目を向けると、空に浮かぶ雲のひとつに夕日に照らされた海があることを見つけた。きれいさっぱりと透明感のある海だ。その海が描かれている雲だけ、やや特殊な感じをしていることが気になった。何のかたちだろうか。右上の部分は島の洞と口にも見え得る。しかし私は、この形をこの男性の故郷の地図をあらわしているのではないかと考えた。それはなぜか、私はこの絵の全体を見たからである。たくさんの国船のついた船とその後方に描かれたきれいな街並みに背を向け、足を踏み出している様子の男性。頬を赤らめてどこか懐かしむように遠くを見つめている。このことから、この場面はたくさんの国々を旅してこれから故郷へと帰ろうとしている、そんな場面なのではないかと思ったのだ。しかしまだ絵を描くことをやめてはいない。おそらく故郷の海の絵の作品を残しておきたいと考えているのではないだろうか。この描かれた街並みと男性の理想の世界である雲のあいだを彩る空の色にあたたかみを感じ、とてもおだやかな心情であるのかもしれないと思った。

解説を
書いてみる

ルソーという画家の名前は聞いたことがあったが、この絵が下手だとは感じなかった。彼が素朴画家だとは思っておらず、驚いた。このような作品を描いた彼の存在ばかりにみづからなればこの絵は、と後世に残らなければならないのだらうなと思った。また、この作品に描かれた中を歩く人物は、彼の自画像であり、万国博覧会の様子であるという事は、私が予想していた様子とは異なっており、意外であった。そして、左上に描かれた夕日についてくわしく話されていなかったことがやや不服である。私はこの夕日に強い意味を感じたのに描かれている、という感じがよくない、そこに込められた意味まで言及されていなかったことが残念に思った。この絵について、個人的に調べて、この夕日に込められている本当の意味を調べてみたい。

○印

図 (A) B C D E F

5 点を提出しました

学生番号 8202 氏名 山館 未来

タイトル 港に想いをよせる

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を要する。

真ん中の人か立っていて、周りが港が氷迎のようで真ん中の人かAA分たっているんだらうけと少し透いているようにも見える。風景も独特なAAからかまるで自分が港にいるのを想像して絵描き(空気を感(受)たように)と感(い)ました。周りが少し赤い色がか、水面は赤い反射し太陽が降りてきていることからこれは夏過ぎから秋の時間帯なのだろうと考えました。また、人物のほかにうようよしているものの無気力そうな下らんて下けつた手ころばに向かっているかたはパレットをひそめていするように見えることから少しすかし(哀愁)を感じた。しかし、それでも手には筆とパレットを持っていて、絵を描くことには強いしゆうけんを持っているのだらうけとも考えました。

解説をきいて、この月、4月のこととておぼたて元々こういう画力だのたのかと感(い)ました。でも素材がかんじか逆ん良いように見えるのだらうけと思(い)ました。エッフェル塔が描かれていたことか感(い)ました。おれこれ、色々考(え)っていたけとわりと単純なことだか感(い)ました。やはり美術は理解しきかない、面白(い)ものだかと思(い)ました。この作者は最初から最後まで画力が変わりたか、かと言(い)れているの(を)聞いて、かえってそのか、と変わりたか、かAAが好評をかんたにうけらうと考えました。

この用紙は、必要な枚数を自分で
コピーしてから記述してください

■ 美術感想文 ■

手書きする

提出日: 6月4日

○印
図 A B C D E F

点を提出しました

学生番号 8208 氏名 横谷ゆき乃

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を委細する。

タイトル

自画像 (正) 「私自身、肖像=風景」

筆とパレットを持っているところから自画像かなと想像しました。人物がまるで巨人のように見えるのですが、パッと見た時はなぜか違和感が無いような気もしました。画面の真ん中に、左右対称に人物を描く場合は、視線が鑑賞者側に向いていることが多いというイメージがあるので、この人物はどこを見ているのだろうか。と気になりました。旗が沢山ついた船や、気球、雲に隠れた太陽など、メッセージが込められているようなモチーフが様々に描かれていますが、納得のいくような意味を汲み取ることが難しいです。

↓解説を
きた後

初めて見た時に「わざと下手に描いているのかな」と思いましたが、少し違うということが解説を聞いて分かりました。「あえて上手くなろうとしなかった」という方が近いのかもしれませんが、向上心が無いように聞こえますが、そうではなく、上手くなくても価値があると考えて描いていたのかと思います。アンチパンダ展では毎年笑し者にされて、上手くなれないのに、なぜ絵を描くことをやめなかったのか気になりましたが、ルソーが「下手でも自分の絵には価値がある」と考えていたとあるなら、納得できます。高校の美術の教科書に載っていた「フットボールをする人たち」という絵が解説VTRに出てきて「これか!」と驚きました。私の好みの絵ではなかったのですが、作者もタイトルも全く覚えていませんでしたが、絵だけはしっかりと覚えていました。それだけ独特な雰囲気があり、見る人を不思議な気持ちにさせる絵だからなのでしょう。ルソーの子どものような絵柄は退行現象の影響もあり、その退行現象は時代に対する不安から生まれたものというような解説がありました。時代の影響を受けて精神状況が変わりそれが作品に表れるというのが興味深いです。同時期の作品の系統が似ているのも、人々の心が時代の影響を受けているからなのだと分かりました。

ここまでに取りめること (裏面には書かない)